



1 中学校における2つの「壁」

教員の仕事の本質は、「授業」である。そのため、授業力向上は教員にとって、永遠のテーマとなる。授業力を向上させるためには、自分の授業を公開し、人に見てもらって様々な視点から助言してもらうことが一番の近道である。しかし、教員の仕事は授業だけではなく、生徒指導・部活動指導等もあり、時間に追われているのが現状である（「多忙の壁」）。また、中学校は、「教科担任制」である。校内で授業をし、研究協議を行っても、各教科の特性があり、教科外の教員からアドバイスしづらいという「教科の壁」も存在する。

2 授業力向上システム

これら2つの「壁」を乗り越えるために、本校では、平成25年度より「教科を超えて交流できる『授業力向上システム』の構築」を研究主題として、学校課題研修を進めている。特徴的な点は、以下の3点である。

(1)「7つの視点に基づく三行感想と研究協議」

授業を分析する視点となる「授業改善のための7つの視点」を作成した。①教師と生徒の信頼関係がしっかりと築かれている。②授業の目標、ねらいが明確である。③やる気を高める工夫・アイデアがあるなど7つの項目がある（詳しくは、平成25年度本校研究紀要を参照）。この「7つの視点」を共有することにより、教科が違ってもお互いにアドバイスをすることが可能になった。また、授業参観者は「三行感想」を記入し、その三行感想を用い、研究協議を行うことで、効率化も図っている。研究協議は実際には、昼休みや放課後に20分程度で終わっている。

(2) 指導略案を作成し、授業公開を全教員が行う

「7つの視点」に基づいた指導略案（A4サイズ、1枚）にすることで、教員にかかる負担を軽くする。そのことにより、気軽に授業公開を行い、アドバイスを受けることができる。平成25年度、26年度とも全教員が授業公開を行い、三行感想を用いた研究協議を実施できた。

(3)「全員参加」の授業参観で他教科から学ぶ

平成25年度の反省に基づき、今年度から、各学期に1回、全教員で授業参観を実施し、三行感想を用いての研究協議も行っている。授業公開するだけでなく、三行感想を書くことも、また三行感想を読み合うことも、よい研修の場となっている。



一斉見学授業の様子



校内公開授業の様子

3 主な研究成果と課題

2年間の研究により、「教員間での授業の話題が増えた」「他教科からの学びを授業に生かしている」などの声が聞こえるようになってきた。生徒・保護者アンケートの結果を見ても、「分かりやすい授業が展開されている」の項目も90%以上の高評価を得ている。こうして、教員の「授業改革」「意識改革」に向けて、教員全員で一步を踏み出すことができた。しかし、教員一人ひとりを見ると、「授業改革」「意識改革」には課題が残るのも実態である。今後も、教員全体で「授業力向上」に向けて、このシステムを継続し、「7つの視点」や他教科から学んだことを日々の授業に生かしていきたい。